



開館3周年記念 特別展を開催します。

—5月18日～7月10日—

テーマ 「名古屋空襲を知る
～今、平和を考えるために～」

名古屋空襲から65年を経て、今なお世界には戦火が絶えず、空爆におびえる人々がいます。「ピースあいち」では、開館3周年記念の特別展として、改めて空爆の歴史的背景や実態を探求し、平和を問い直す特別展を企画しました。

展示は以下の3つのテーマで構成されています。

■第Ⅰ展示：空爆の歴史

ドイツ軍によるゲルニカ爆撃、日本軍による中国重慶への爆撃、そして米軍による東京・名古屋など日本への爆撃にいたる無差別爆撃の歴史的経緯をたどる。重慶爆撃については、その位置づけと爆撃下の町の状況を詳述し、また爆撃に使われた軍用機・爆弾等製造への東海地区の関わりについても明らかにする。

■第Ⅱ展示：名古屋空襲の実態

日本でも有数の軍需工場であった愛知時計への爆撃と、大きな被害をもたらした3月12日の空爆の実態を、市民の日記と米軍の作戦報告書とを対比させて時系列的に克明に再現する。

学童疎開における残留学童についても取りあげ、また町の中に取り込まれた名古屋の軍需産業の

ピースあいち3周年に寄せて

館長 野間美喜子

私たちの創った「ピースあいち」、みんなで育ててきた「ピースあいち」が3周年を迎えました。全力疾走の3年間でした。スタッフ、ボランティアさん、会員のみならず、そして多くの支援者、来館者のみなさま、ありがとうございました。ピースあいちの活動は終わりなく、これからも続きます。課題もたくさんあります。人々の平和への思いを編み合わせる場所として、「ピースあいち」をこれからもよろしく願っています。

発展についても跡付ける。

■第Ⅲ展示：現代の空爆

第二次世界大戦後も朝鮮、ベトナム、中東など世界の各地で行われた空爆の概要と、大国が開発した枯葉剤、劣化ウラン弾、クラスター爆弾などの非人道的な兵器の開発状況について取りあげる。

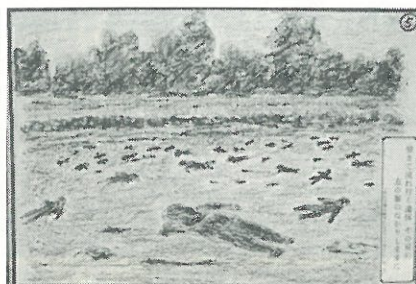
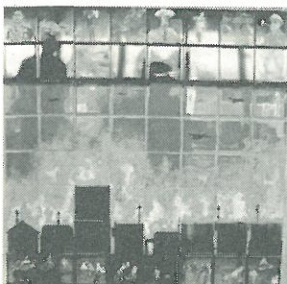
一方で、残虐兵器の使用禁止条約を推進する市民運動や、核のない世界をめざす動きについても紹介する。

「空爆のことを伝えよう・市民作品展」

—3月23日～4月24日—

特別展に先立ち、空襲や戦時下の生活体験を後の世代に伝える市民作品を募集し展示会を開催します。すでに体験記23編、絵画13点、短歌・俳句100首・句が寄せられています。

応募作品の中から、来館者によるアンケートも考慮して、それぞれの部門ごとに山下智恵子賞、丹羽和子賞、天野鎮雄賞が贈られます。



市民作品展
応募作品より
(絵画)

戦時の痛ましき姿の数々

2009年7月～2010年2月のイベント

7月から11月までのイベント

開館3年目に入って、7・8月は原爆を主題としたパネル展2本——「原爆と人間」「丸木美術館作品「幽霊」と3年連続となる金城学院中・高生の平和学習の発表展示で、原爆問題を強く訴えました。

9月29日～10月17日は沖縄の戦後64年を写真でつづる「あんやたん」写真展を沖縄タイムス社の特別協力を得て開催し、在日米軍基地の狭間で苦渋する沖縄の現状を浮き彫りにしました。

秋の大型展示では10月20日から11月28日まで「あいちの戦争遺跡」展で、県内10カ所の遺跡を紹介し、訪れた人からは「こんな身近なところに戦争の爪あとがあったなんて……」という声も聞かれました。また、関連して、11月7日に戦跡研究会清水啓介氏による講演「愛知の戦争遺跡の現状」を行い、テーマを深めました。



超満員のピアノコンサート



'09所蔵品展「モノが語る戦時下の暮らし」と年末祭

年末から翌年にかけての展示は、前年に続いて「ピースあいち」所蔵品の中から出品する企画で、テーマを「モノが語る戦時下の暮らし」としました。

今回選んだ「モノ」は「国民服・学生服・もんぺ」「標語・ポスター」「代用品」「鉄帽・防空頭巾・戦闘帽」の4類型に限定し、これらに15年間の暮らし関連の出来事を示す年表も添えて、「'09所蔵品展」としました。12月8日～2月20日の期間中、約900名に参観いただきました。「軍事優先下におかれた庶民事情がよくわかる」と評して帰る人もありました。

特筆できることは、「所蔵品展のオープニングを彩るイベント」として12月13日に催した『ピースあいち年末祭』が約320名の参加者を集めて実行できたことでした。

内容は安孫子和子さん（武蔵野音楽大学准教授）によるピアノコンサートで満員の聴衆132名を魅了

し、戦時下の食事「すいとん」を食べる体験（無料）では「だんごがモチモチ、野菜も多くおいしかった」などのアンケート回答があり、関係者の骨折りが実りました。5月のピースまつりに続くバザーも売り尽くし、好評のうちに幕を閉じました。



あいちの戦争遺跡



所蔵品展から「代用品」



動き出した「ピースあいち語り手の会」

—13名の語り手派遣

「ピースあいち」では、愛知県下の小中学校から「戦争体験の語り手」を派遣してほしいとの要請に応じて、「出張授業」を行っています。

2009年度は、稲沢市立山崎中学校、名古屋市立千代田橋小学校、額田郡幸田町立豊坂小学校など計6校で「ピースあいち」の出張授業を行い、授業を受けた生徒は約550名に上りました。語り手の方には主として、都会での空襲体験や学童疎開、戦中・戦後の厳しい暮らしの様子などを語っていただいています。生徒たちからは戦争の恐ろしさを理解し、二度と戦争をしてはいけないなどと訴えた多くの手紙をいただいています。

こうした語り手の派遣事業を通じて、年々減少していく戦争の体験者をつなぐ組織としてピースあいちでは2009年7月、「ピースあいち語り手の会（以下、語り手の会という。）」を立ち上げました。今後はこの組織を通じて、学校などへの語り手の派遣、会員同士の体験交流、朗読会の開催、体験を後世に伝えるための映像や記録集の作成などのほか、将来的には若い人へ語りのバトンを引き継ぐ活動にも取り組むこととしました。

10月には、「語り手の会」の会員40名の参加を得て、第1回例会を開催し、戦争体験を語り合っ意見の交換を行いました。この時点での会員数は76名に達していました。

なおこの例会において、戦争体験記の募集を行い、10編ほどの体験記が寄せられました。時機を見て「体験集」としてまとめたいと考えています。

2010年が明けて1月26日、愛知県と名古屋市が設置している「戦争に関する資料館

調査会（以下、調査会という。）から県下の小中学校へ戦争体験の語り手を派遣してほしいとの依頼がありました。

派遣先は安城市立錦町小学校で、約100名の生徒たちを3つのクラスに分けて3人の体験者に、①空襲による爆撃・被災体験 ②学童疎開および戦時下の厳しい暮らし体験 ③軍隊に招集され、多くの戦友が死んでいった凄惨な戦場体験の3つのテーマについて語っていただきました。その模様はテレビでも放映されました。「語り手の会」として初の語りの体験となりました。

その後2月から3月にかけて、調査会からはさらに7校の小中学校への派遣要請があり、合わせて13名の語り手を派遣しました。「語り手の会」の活動を軌道に乗せる端緒となりました。

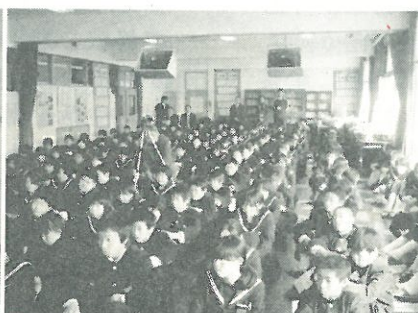
「語り手の会」の会員は高齢者が多いことから、元気に健康を維持していただくことを優先し、今後とも体調に合わせて語り手の派遣事業などに取り組んでいきたいと考えています。

2009年度平和学習支援事業

日程	学校名	語り手
1月26日(火)	安城市立錦町小学校	斎藤 孝 島村 悦子 川村 映二
2月 1日(月)	名古屋市立上名古屋小学校	小笠原淳子
2月 5日(金)	安城市立三河安城小学校	杉村 公男 仲 直敏
2月17日(水)	愛教大付属岡崎中学校	加藤 圭治 中野 巖 佐野 嘉十
2月19日(金)	東海市立加木屋中学校	浅野 善彦
3月 5日(金)	名古屋市立日比津小学校	島村 悦子
3月11日(木)	名古屋市立平和が丘小学校	小笠原悦子
3月12日(金)	安城市立安祥中学校	浅野 善彦
	8 校	13名



安城市立三河安城小学校



東海市立加木屋中学校



安城市立錦町小学校

空襲体験を語る

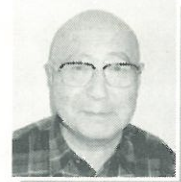
家族8人の戦争体験を語る

戦争が終わった時に国民学校5年生だったということで、「ピースあいち」で戦争体験談をすることになり、主に小学校高学年を相手に戦争中・戦争直後の話をしています。

戦争体験という課題に、縁故疎開して大空襲にも遭わなかった少国民の私の体験談では、見学に来た子どもたちに戦争の怖さ、愚かさを十分に伝える説得力はないと思い、この機会にそれぞれ戦争体験のある家族みんなに話の中に登場してもらうことにしました。こうして体験談は戦後65年目の今、後期高齢者である末っ子が「家族8人の戦争体験談」として話しています。

私は自分の疎開先の生活と出来事を話しますが、父については名古屋の空襲で会社が灰になって苦難が始まったこと、母は病弱で心身の過労と栄養失調で病死したこと、長兄は乳飲み子とお嫁さんを残して出征したこと、他の兄は軍隊で肺結核に罹り台湾の地で戦病死したこと、他の兄は中学卒業後すぐに海軍・陸軍にとられたこと、

「ピースあいち」ボランティア、語り手の会
杉村公男



他の兄は学徒動員先の工場で監督軍人の残飯を競って食べたこと、姉は出校日に学徒動員先の工場が大空襲を受けたことなど、話せば長く幅もある体験談を要約して話しますが、時間は足りません。

敗戦の3年前に撮った8人家族の元気な記念写真と、敗戦の年の2人が欠け、軍事一色の姿に変わり果てた家族の合成写真をじっくりと見比べていると、一人ひとりの人生が、生命を、家族を、自由を、青春を、勉学を、財産をとあらゆるものを奪われ、破壊され、空白しか残らなかった戦争地獄の非人間性が痛感されます。この辺をうまく伝えたいと思います。

これからの時代、戦争体験談は過去の戦争の悲惨さを伝えるだけでなく、一步踏み込んで人間の原点に回帰し、そこからの真の平和を考える人達が出てくるような体験談にしていけたら良いと思います。幸い日本には平和憲法という基盤があります。

廃墟の中での卒業式

昭和20年、私は当時八熊通り近くに住んでいて、熱田区日比野の西町国民学校（高等科・今の中学2年）に通っていました。3月19日、明け方から名古屋地方はB29の猛爆により、我が学校は跡形もなく焼け落ちて、校庭は足の踏み場もない有り様でした。そんな環境で迎えた卒業式に、先生が『君たちに卒業という証もなく、社会へ送り出さなければならないということは誠に残念である』と声を震わせて言った言葉が今も脳裡に残っています。

私は学徒動員で、三菱重工業大江工場に産業戦士の名のもとに学業を捨てて働きに出向いていました。空襲は日増しに激しくなり、本土決戦の様相となって名古屋は度重なる爆撃で焦土と化していました。6月9日、熱田区船方にある愛知時計電機の爆撃は凄まじく、一瞬にして2000人を超す死者が出るという大惨事でした。数え切れない人々の死体が散乱し、肉が飛び散

「ピースあいち」語り手の会
森田繁雄



った光景に、まだ卒業したばかりの14歳の私はただ目を覆うばかりでした。

その後も米軍による本土焦土作戦はエスカレートし、昼夜を問わない空襲で軍需工場は壊滅状態でした。工場にいては危険ということで『家へ帰れ!!』と放り出されましたが、B29の編隊が腹の底までこたえるような爆音を響かせて爆弾を投下する様子は、本当に恐怖の連続でした。

そうした繰り返しで8月15日、天皇の玉音放送で終戦を迎えました。凄まじい戦火で多くの人が亡くなり、運良く生きながらえた人達も辛い耐乏生活を耐えて精一杯生きてきたのだと思います。これらの事柄は過去に我が国が辿った厳然たる事実です。

私は名古屋に生まれて人生の大部分を大都会で過ごしましたが、それは苦しさの中でのかけがえのない『ふるさとの思い出の名古屋』でもあります。

学童集団疎開と神戸大空襲の記憶

「ピースあいち」語り手の会
島村悦子



1944年9月17日、私たち神戸市立六甲小学校の児童は岡山県の笠岡町に疎開しました。出発の日、最初は嬉しそうに親たちに見送られて、列車に乗りました。

笠岡について19日より女子部は笠岡高等女学校に初登校、歓迎式をしていただきました。宿舎は町の一番いい旅館に泊まることができ、ラッキーでした。

それから6カ月間、女学校の先生方や女学生に可愛がられながら、勉強に励みました。帰神すれば女学校の入学試験があるので、学校でも旅館に帰ってからも勉強に励みました。もちろん9歳から12歳までの子どもたちの親を離れての共同生活ですから、寂しい思いは日に日に募り、帰りたい、帰りたいと泣く子もいました。それでも日本が勝つと信じてホームシック、シラミ、空腹、寒さ、いじめなどと戦いながら、下級生たちの面倒も見つつ、生活していました。皆の楽しみは、6カ月に一度の親の面会、現地の婦

人会の方々の慰問や地元の方々の家に招かれることなど、嬉しいこともありました。

特に忘れられないのは、12月23日に当時の皇太子殿下のお誕生日に、皇后陛下から全国の疎開児童に一袋ずつのビスケットをいただいたことでした。当時の私たちにとって、そのビスケットは宝物のようでした。

本土空襲が急に激しくなったのは、6年生が小学校卒業のために45年3月に神戸に帰ってからです。3月10日に一晩で10万人が死んだ東京大空襲、また神戸、大阪、名古屋などの大空襲がありました。私の家は5月の神戸大爆撃と6月の神戸東半分の大空襲をまともに受けました。自宅も壊れ、伯父の家も自分の女学校も燃えているのを見ていました。もう一人の叔父は焼夷弾の直撃を受け、鉄兜が割れて油脂を浴びて全身大火傷を負って、一週間苦しんで死にました。

負けたとはいえ、戦争が終わって命が助かり、ほっとしました。

軍国少年とは程遠い私でした

「ピースあいち」ボランティア
山田恵三



私の小学校時代は、その大半が国民学校時代であり、太平洋戦争時代そのものであった。従って、どんなことでも戦争ぬきでは考えられなかった。国民生活は基本的には耐乏生活で、いわゆる「欲しがりません勝つまでは」の標語どおりであった。

ところが、わが家では必ずしも常識どおりでなかったように思う。割に早くから、この戦争は勝ち目がないというようなことが家庭内で話題になっていたようだ。確か5年生のとき、父がいずれにしても負け戦で終わるだろうと話していた。そのとき、母が絶対に口外しないよう注意したことを憶えている。

私の家庭は戦前、千種区と中川区の両区に分れて住んでいた。千種には祖母・姉・兄、中川区には両親・私・妹・弟がそれぞれ住んでいた。姉の話では、各家庭から金属回収でわが家から仏壇の金具を出すことになったとき、祖母は「仏

壇の金具まで供出しなければならぬ戦争では勝てる筈がない。お天道さまがお許しにならない」と吐き捨てるように言ったそうだ。今思うと、祖母の庶民感覚は大したものだと感心する。

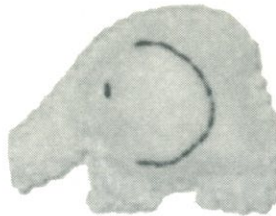
わが家の戦争に対する見方は、祖母の感覚も影響していたかもしれない。父がどこから情報を得ていたのか今となってはわからない。誤解のないように一言加えると、わが家は反戦家庭というような仰々しいものでなく、戦争に対して何か割り切れないものを感じていた程度と思う。その証拠に、父は私に陸軍幼年学校へ行くかという矛盾したことも言っていた。親として心のうちは複雑で戸惑っていたのであろう。

家庭、学校で余りぎすぎすぎた雰囲気ではなかったためか、私は軍国少年とは程遠いものであった。敗戦の玉音放送を聞いたとき、やはりそうだったのかという思いと共に、これで家に帰ることができる嬉しさで一杯であった。

「象さんブローチ」の プレゼント

2009年8月、ガールスカウト愛知県第103団の4歳児から大人までの24名が来館し、ガイドと体験談を行った。後日、指導者から郵便物が届いた。

「子どもたちは『戦争はしてはいけないこと、悲しいことがわかった』『戦争は起きてほしくない』『少し難しかったけど、おじいちゃんにピースあいちの話したら戦争のときの話をしてくれました』と、何かを感じ取ってくれたようです。



このことを忘れてほしくなくて象のブローチを作り子どもに渡したところ、ピースあいちの人にもお礼に作りたいと言うので2カ月かけて一緒に作りました」と、

ピンク色・水色・黄色のフェルトで作られた約3cm四方の象のブローチが50個入っていた。

引率者の子どもに対する姿勢に感動し、もし戦争という事態になったとき、子どもたちからどうして戦争に反対しなかったの、と言われなようにしようと誓いながら礼状を書いた。

毎月第2土曜日・映画上映会

対外的には、「映像による学習会」と銘打っていますが、内容は、「戦争と平和の名作映画上映会」です。最近になって少し認知されてきたように感じます。

09・8月8日：「ひまわり」(1970年作品)

観客：14人

09・9月12日：「二十四の瞳」(1954年作品)

観客：10人

09・10月10日：「北辰斜めにさすところ」(2007年作品)観客：22人

09・11月14日：「禁じられた遊び」(1952年作品)

観客：8人

09・12月12日：「ビルマの竖琴」(1956年作品)

観客：37人

10・1月9日：「母べえ」(2007年作品)

観客：23人

10・2月13日：「早咲きの花」(2006年作品)

観客：13人

10・3月13日：「アニメ・火垂るの墓」(1988年作品)観客：12人

作品の選定において、イベント委員からの推薦、ボランティアさんからの推薦も多くなっています。

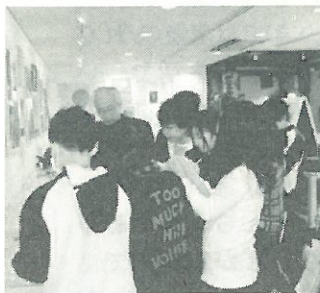
特に、ボランティアの並木さんの10月作品「北辰斜め……」は、並木さんが多くの知人友人に呼び掛けられて大いに賑わいました。想定外だったのは「ビルマの竖琴」の観客が過去最高だったことです。今後は、4/10高倉健主演「ホタル」などを予定しています。



2009年8月から2010年3月まで 団体の参観約600名

「ピースあいち」への来館者、少ない日は一人の場合もあります。学校からの参観、団体・組織からまとまった参観が何よりも来館者を増やす近道です。

いま、「ピースあいち」では、学校に対しては、校長会のご紹介を得て名古屋市内の小・中学校約380校へお願いの手紙を出しました。県立及び名古屋市立の高校や私立学校へも呼びかけました。昨年8月から今年3月にかけて、小・中学校からは14校・約400名の参観がありました。児童・生徒さんのほか、名東区内小・中学校社会科主任の先生方も研修をかねて来観されました。インフルエンザの影響か、今年度は学校参観が少し



減っています。

また、この期間22団体・組織から約550名の参観がありました。これら団体・組織は遺族会やガールスカウト、労組関係などさまざまです。遠くは和歌山県下の市民会館や大阪府島本町関係者からも来られています。

広報チラシ5万枚を作り、市民グループ・団体などに来館を呼びかけていきます。

遠い記憶を甦らせて 戦争体験を語る人々

「ピースあいち」では毎年夏に「戦争体験を語る会」を開いています。昨年は8月1日から休館日を挟んで15日まで、11人の方が語りました。その体験も下表のように、「戦場」「空襲」「原爆」「学童疎開」「外地からの引き揚げ」など様々です。

夏休みとあって家族連れの来館者が多く、小学生など子どもさんらには最前列に席を用意しました。語り手はどなたも実体験者であり、遠くなった記憶を甦らせながら苛酷な戦時の暮らしを生々しく語っていました。

○戦争体験者による語り

1日(土)「ニューギニアにて」	杉山 常男
4日(火)「北区空襲体験」	吉田 公幸
5日(水)「マサコの戦争」	大脇 雅子
6日(木)「空襲体験と戦時下の暮らし」	井戸 早苗
7日(金)「名古屋陸軍造兵廠千種製造所」	木村喜久一
8日(土)「模擬爆弾の体験」	山田美美代
11日(火)「学童疎開体験」	小笠原淳子
12日(水)「満州引揚げ体験」	森島 典子
13日(木)「長崎原爆体験」	仲 直敏
14日(金)「女性軍属の体験」	松本 つな
15日(土)「長崎原爆体験」	稲垣 慶子

子どもさんらは語り手の顔を見詰め、真剣な顔つきで聴いていました。語りが終わって質問の時間になると、聴衆からは「私は戦後の生まれですが、日本でも戦争があったことは知っています。でも、こんなに悲惨なものだとは思っていませんでした」と溜息をつく方もおられました。また、「私も同じようなことを経験しまして……」という方もおられ、語り手と聴衆との交流も見られました。

毎回40人ほどの集まりで、総計は432名でした。

●会場のアンケートから

- せんそうはちょっとこわいけどでもよくわかりました。いまのじだいにうまれてよかった。(8歳 女)
- 原爆を体験された仲さんのお話がすごく良かったです。戦争をする事、核兵器を使う事のおそろしさを改めて知りました。(12歳 女)
- 夏休みの宿題を済ませてしまおうというつもりで来ましたが、あまりの衝撃で、そんな考えで来た自分を恥じました。それと同時に、薄れゆく戦争の記憶を私達後世の人々に伝えてくださるこの「ピースあいち」に来ることができ、とても良かったと思います。私ももっと戦争と平和を考えることのできる人になりたいです。(13歳 女)

資料館探訪

「ピースおおさか」

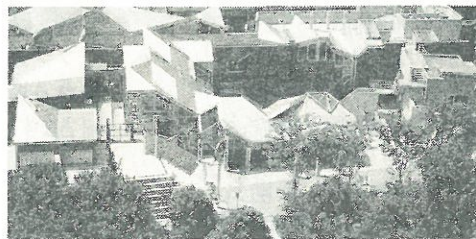
充実している映像コーナー

日本には広島・長崎の原爆資料館、沖縄の平和の礎等々、平和・戦争資料館や戦跡がたくさんあります。ニュースでは今後、そのいくつかを取り上げ、紹介していきたいと思っています。

緑に囲まれた大阪城公園内に、いろいろな形の屋根を持った造形的にすぐれた建物があります。それが「ピースおおさか」です。1991年、大阪府と市が資金を出してつくったもので、公営の資料館です。

2階の入口から展示室(大阪空襲の展示)に入ると、1トン爆弾の模型(原寸)が目に入ります。その大きさに圧倒されます。「戎橋筋界隈の焼け跡」が、1/100の模型に作られ、床下に埋め込まれています。上から眺めるのですが、空襲のすさまじさが実感できます。

3階の展示室は第二次大戦後の現代世界の状況を展示していますが、核戦争の危機を示す「運命の時計」が出来事ごとに残り何分と提示されているのに感心



いろいろな形の屋根のある建物(ピース大阪のパンフレットより)
平和とは、多様なものが相互に認め合って同時に存在し得る世界であることを表現しています。



入口にある母子像

しました。この階には映像コーナーがあり、戦争と平和に関するビデオとDVDが全部集められているのではないかと思うほどありました。それが仕切られたブースの中で観られるようになっていきます。毎日通ってみたいぐらいです。図書も充実しています。

建物が大きくスペースが広いので、ゆとりのある展示ができています。視聴覚教材や図書の充実は研究の場の役割を持っています。

公的機関が力を入れて取り組めば、こんな素晴らしい資料館にすることができるのだと感動しました。しかし、府や市の財政難で、予算が大幅に削られ、新規の催し物を作り出すことが難しくなっていると事務局の方が嘆いておられました。(N)

●これからのイベント

■開館3周年・ピースまつり 入館無料です

多くの方に、ピースあいちを知っていただきたい、多くの方と交流ができればとコンサート・バザーなど楽しい企画がいっぱい。子ども向け企画もあります。

ぜひお越し下さい。お待ちしております。

5月1日(土) 10:30~16:00

5月2日(日) 11:00~16:00

*コンサート:

アンサンブル・ボヌールによる演奏(1日)、
学童保育所ペガサスちちバンド(2日)

*バザー、沖縄物産展、産直野菜、オープンカフェなど

*おもちゃ病院、子どもコーナー:絵本の読み聞かせ(1日)、折り紙、バルーンアートなど

■桜のころ、平和公園から「ピースあいち」へ一緒に歩きませんか!

「ピースあいち」近くの平和公園は戦争遺跡が多く、市内数少ない里山も広がっています。

●戦争遺跡めぐりウォーク

4月4日(日) 午前10時・平和公園平和堂集合

●平和公園南部緑地散策・ピースあいち見学

4月17日(土) 午前9:30

地下鉄星ヶ丘②出口サークルK前集合

●ピースあいち・メルマガジン(無料)を発行しています。

昨年末より、月に一度、メルマガの無料配送を始めました。ピースあいちのイベント予定、近況、ボランティア雑感、收藏品や常設展示、事務局長のつぶやきなどなど、事務局やボランティアがお知らせしています。

ピースあいちのホームページから申し込みができます。ぜひ、お申し込みください。

ピースあいちの運営を支えてください。

本館の運営経費は、来館者の入館料と正会員、賛助会員の会費に頼っています。入館者は、初年度が11,881人、昨年度は6,744人でした。3年目の6月末現在入館者は2万人を越えました。

昨年度の月平均は560人ほどですが、8月は夏休みとか「戦争体験を聞く会」もあって、1,075人(うち子ども517人)。子どもさんの多い月は、11月(520人)と2月(210人)でした。昨今は団体の見学が増加傾向にあります。主として小中学校ですが、社会人のグループも少なくありません。

会員は開館当初の295名から昨年度末で764名と拡大しています。正会員(年間会費6,000円)には年間無料で入館できる無料パスの特典があり、賛助会員(年間会費3,000円)には無料入場券を一枚お渡ししております。また団体・法人には「ピースあいち支援団体」(一口1万円)になっていただくことを願っております。お申し込みは郵便局の振込用紙、または「ピースあいち」で直接お申し込みください。

会員になってくださり、この「ピースあいち」を支えてください。

■「ピースあいち」への交通のご案内



【ピースあいちの利用案内】

●開館日 火曜日~土曜日

●開館時間 午前11時~午後4時

●休館日 日曜日・月曜日・夏期休館・年末年始

●閲覧料 大人 300円 小中高生 100円

●2階の常設展示室のほか、1階にも「現代の戦争と平和」というテーマでの展示と戦争に関する図書のライブラリーがあります。1階で開催するイベントに参加される場合は、1階の展示及び図書の閲覧も自由になります。

●団体やグループ、学校などの見学会で開館時外に来館ご希望の方は、ご相談下さい。

●駐車場がありません。公共交通機関でおいで下さい。

●夏期休館 2009年8月30日(日)~9月7日(月)

●編集後記

「ボランティアは少しだけ手を出す。その仕事はみんなで手掛ける」というのが私の持論である。特定の人に負担がかかると長続きがしないからである。

当館の様々な事業を展開するために、「イベント班」を始め「広報班」「資料班」「調査研究班」など15のグループが仕事を分担して平和運動を支えている。

学校やグループなどの団体見学では、「展示ガイド」を担当するボランティアが解説を加えながら展示室を巡っている。当館の前庭の花壇では、3人のボランティアが丹精こめて育てた「アンネのバラ」が可憐な花を咲かせている。(S)